

210.原因不明の発熱症例から感染性心内膜炎の可能性を見積もる予測モデルの再構築と検証

研究の概要

感染性心内膜炎（IE）は、発熱を来す疾患で呼吸不全、四肢麻痺、関節痛など様々な症状を呈します。身体所見や検査所見が非特異的であることから、診断困難となることが多いです。診断が遅れると予後不良となるため早期診断が重要です。近年、IEの後ろ向き研究から作成されたIE予測モデルが報告され、その有用性はある程度確認されましたが、問題点も指摘されました。そのため、多施設前向き研究での新たなIE予測モデルの再構築ならびにすでに作成されたIE予測モデルの検証が必要となりました。今回、原因不明の発熱症例からIEの可能性を見積もる予測モデルの再構築と検証を行うために佐賀大学医学部附属病院地域医療教育研究センターが中心となり、多施設前向き研究が提案され、国立病院機構熊本医療センターも参加することといたしました。

研究の目的と方法

今回の研究は、原因不明の発熱症例からIEの可能性を見積もる予測モデルの再構築と検証を行うことを目的とします。本研究は、18の医療機関（佐賀大学医学部附属病院、岡山大学病院、順天堂大学、東邦大学医療センター大森病院、獨協医科大学病院、聖マリアンナ医科大学病院、国立病院機構熊本医療センター、練馬光が丘病院、明石医療センター、宮崎県立宮崎病院、亀田総合病院、飯塚病院、足利赤十字病院、国立病院機構嬉野医療センター、筑波大学水戸地域医療教育センター・水戸協同病院、浦添総合病院、聖隷浜松病院、社会医療法人祐愛会織田病院）の総合診療部門におけるIEの予測モデルの再構築および検証するための前向き症例対照研究です。本研究では、2024年4月1日～2025年5月31日に国立病院機構熊本医療センター（救急外来もしくは総合診療科）を受診された患者さんのうち、37度以上の発熱を来した18歳以上の方、発熱の原因が特定されない状態で入院された方、感染性心内膜炎疑いで入院された方、感染性心内膜炎と確定診断されて入院された方を対象としています。入院前に感染性心内膜炎以外の発熱の原因が特定できた方、入院前に血液・尿検査・胸部レントゲン検査の一つ以上が未施行である方、前医を含め入院48時間以降に発熱を来した方、本研究への参加に同意されなかった方、担当者が研究への参加が不適当と判断した方は除外いたします。全体の目標症例は、300名です。日常診療で得られたデータを電子カルテから抽出いたします。抽出したデータをもとにIEの予測モデルの再構築と検証、固有弁または生体弁症例における予測モデルの感度分析、先行研究で開発されたIE予測モデルの検証を統計学的手法を用いて行います。データの解析は、研究責任者（山下駿）が中心となって行います。

本研究の参加について

これにより、患者さんに新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究で扱う情報は、個人が特定されない形で厳重に扱います。その他研究に関してご質問がございます際は、末尾の問い合わせまでご連絡ください。

調査する内容

本研究は、新たに試料・情報を取得することではなく、既存カルテ情報のみを用いて実施する研究です。研究対象者（患者さん）の個人情報（氏名、住所、電話番号、カルテ番号など）は、記載せず、対応表を作成して管理しますので、個人情報は特定されません。

実施期間

調査対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日

研究期間：倫理委員会承認後～2027年3月31日

研究成果の発表

研究代表者は、研究終了後、遅滞なく研究精査を学会や学術論文で発表いたします。また、個々の患者さんのデータを発表するときも、個人が特定されることはありません。

研究代表者

佐賀大学医学部地域医療科学教育研究センター 山下駿

当院における研究責任者

国立病院機構熊本医療センター総合診療科 國友耕太郎、辻隆宏

問い合わせ先

国立病院機構熊本医療センター総合診療科 國友耕太郎、辻隆宏

電話：096-353-6501